

令和4年度事業報告

I. 事業の状況

1. 奨学事業

(1) 外国人留学生に対する奨学事業

1) 奨学生の選考及び決定

令和4年4月21日開催の選考委員会において、推薦を依頼した指定19大学からの奨学生候補者について審査の結果、下表のとおり、一般奨学生24名（学部12名、大学院12名）、特別研究奨学生8名の計32名を新規に採択し、理事会は、これらを第21期小林奨学生として決定し、それぞれの大学に通知した。

これにより、令和4年度（第21期）の奨学生は、新規採択奨学生32名に継続の奨学生38名を合わせ、計70名となった。

内訳：

種 別		新規採択者	前年度からの継続者	計
一 般 奨 学 生	学 部	12	7	19
	大学院	12	25	37
特別研究奨学生	学 部	0	0	0
	大学院	8	6	14
計		32	38	70

2) 奨学金の支給

ア. 奨学金贈呈式

「新型コロナウイルス」の感染状況に鑑み、令和4年6月3日に予定していた、令和4年度の贈呈式はZoomにより実施した。

イ. 奨学金の支給

奨学生に対し、一般奨学金（学部生月額15万円、大学院生月額18万円）、特別研究奨励金（月額20万円）をそれぞれ4月から1年間支給した。

(2) 日本人学生に対する奨学事業

1) 医学部生育成支援プログラム第2期生の選考及び決定

令和4年7月27日開催の選考委員会（Zoom開催）において、推薦を依頼した指定4大学からの候補者について審査の結果、合計6名（東北大学1名、東京大学2名、京都大学2名、大阪大学1名）の者を採択し、理事会は、これらを医学部生育成支援プログラム第2期生として決定し、それぞれの大学に通知した。

2) 奨学金の支給

ア. 奨学金贈呈式

「新型コロナウイルス」の感染状況に鑑み、令和4年9月29日に、Zoomにより実施した。

イ. 奨学金の支給

奨学生に対し、月額20万円をそれぞれ4月から1年間支給した。

(3) 学業に関する報告及び生活状況報告

令和5年1月、奨学生（外国人留学生）に、勉学の状況・成果の報告、生活状況報告を求めた。

また、令和5年3月、医学部生育成支援プログラムによる第1期生、第2期生に、学業報告並びに成績証明書の提出を求めた。

(4) 令和5年度奨学事業関係

1) 外国人留学生に対する奨学事業

令和5年1月18日付けで、令和5年度奨学生（第22期）候補者の推薦を指定24大学の長あて依頼した（推薦期限は2月21日）。

2) 日本人学生に対する奨学事業

令和5年3月17日付けで、令和5年度奨学生（第3期）候補者の推薦を4大学（指定大学）の医学部長あて依頼した（推薦期限は6月30日）。

2. 交流活動事業等

(1) 奨学生交流会

奨学生交流会を、財団役員、評議員、選考委員及び評議員選定委員の出席を得て、次のとおり開催する予定であったが、「新型コロナウイルス」の感染状況に鑑み、全て中止とした。

なお、第1回の「第21期贈呈式・交流会」のうち、贈呈式については、令和4年6月3日に、新規採択者の参加のもと、Zoomにより実施した。

また、第3回の「第21期終了式・交流会」のうち、終了式については、令和5年3月3日に、終了生の参加のもと、Zoomにより実施した。

第1回 令和4年6月3日 第21期贈呈式・交流会

第2回 令和4年9月15日～16日（1泊2日の研修旅行）

第3回 令和5年3月3日 第21期終了式・交流会

(2) 「翼」の発行

奨学生相互間、奨学生と財団間の交流に資するための交流誌「翼」第21号を令和5年3月31日に刊行した。

3. 研究支援事業

(1) 研究助成事業

① 公募期間：令和4年8月29日～10月14日

② 令和4年12月1日開催の選考委員会において下記45件を採択し、理事会は、これらを研究助成受給者として決定し、各研究代表者に通知した。

	氏 名	所属機関及び職名	専門分野	研究テーマ
1	小林 正紀	北海道大学 大学院薬学研究院 教授	臨床薬学	記憶形成に関わる新たな指標を用いた機能性食品成分の有効性・安全性評価
2	照川 アラー	北海道大学 大学院医学研究院 助教	整形外科	高齢化社会における運動器疾患に対する治療法の開発
3	吉野 優樹	東北大学 加齢医学研究所 腫瘍生物学分野 助教	腫瘍生物学 腫瘍内科学	ゲノム安定性に寄与する核内・核外シグナルクロストークの解明
4	向井 康治朗	東北大学 大学院生命科学研究科 助教	細胞生物学	抗腫瘍免疫療法への応用を目指した自然免疫応答経路STINGシグナルの収束機構の解明
5	坂田 麻実子	筑波大学 医学医療系 教授	血液がんゲノム解析	T細胞リンパ腫の微小環境に対する標的治療の開発
6	山崎 礼二	自治医科大学 医学部解剖学講座 組織学部門 講師	神経化学 神経薬理学	オリゴデンドロサイトの老化に伴う形態変化の解析と細胞の若返りを期待した脱髄予防法の確立
7	石川 勇人	千葉大学 大学院薬学研究院 教授	天然物化学	フィリピン薬用資源植物からの有用生物活性天然物の探索、合成、構造活性相関研究
8	藤井 渉	東京大学大学院 農学生命科学研究科 助教	動物遺伝学	ホスファチジルイノシトール4リン酸(PI4P)合成関連経路の生体内機能の解明
9	田中 真司	東京大学 医学部附属病院 腎臓・内分泌内科 助教	腎臓内科学	消化管神経免疫連関を介した腎障害新規治療戦略の開発
10	上阪 直史	東京医科歯科大学 歯学部 教授	神経科学	口腔システム不全が脳機能に及ぼす影響と介在するメカニズムの解明
11	櫻井 香里	東京農工大学 大学院工学研究院 准教授	生物有機化学 ケミカルバイオロジー	天然物修飾金ナノ粒子を用いた標的タンパク質探索法および分解誘導剤の開発

12	寺 正行	東京農工大学大学院 工学研究院 准教授 (テニュアトラック)	ケミカルバイ オロジー	DNAの非典型的な立体構造を標的と した塩基書換え技術の開発
13	平沢 敬	東京工業大学 生命理工学院 准教授	応用微生物学	出芽酵母におけるグリセロール資化 の新規メカニズム解明と有用物質発 酵生産への応用
14	高橋 大輔	慶應義塾大学 薬学部生化学講座 専任講師	腸管免疫学	小腸パイエル板の濾胞性ヘルパーT 細胞分化誘導を促進する腸内細菌と 食事成分の同定
15	北浦 次郎	順天堂大学大学院 医学研究科アトピー疾 患研究センター 教授	アレルギー ・免疫学	新規の抗ヒトIgE抗体の作用機序の 解明と即時型アレルギーに対する予 防・治療効果の解析
16	和田 裕雄	順天堂大学 公衆衛生学講座 教授	公衆衛生学	カイコを用いた未知の環境曝露の可 視化モデルの開発研究:無莢膜型イン フルエンザ菌と喫煙
17	小沼 剛	横浜市立大学大学院 生命医科学研究科 助教	構造生物学 生化学	COVID- 19治療薬開発に向けたBRD4阻害剤 の構造基盤の確立
18	細川 裕之	東海大学 医学部基礎医学系生体 防御学 准教授	免疫学	RUNX転写因子によるT細胞の運命 決定機構とその破綻によるT- ALL発症メカニズムの解明
19	井上 敬一	新潟大学 医学部医学科 准教授	生化学 実験病理学	マイトファジーによるミトコンドリア 分解異常から見たアルツハイマー 病の理解とその治療法の開発
20	夜久 圭介	富山大学学術研究部 医学系分子医科薬理 学講座 助教	栄養生化学	NAD ⁺ 代謝の臓器間連関の老化にお ける役割の解明
21	島村 裕子	静岡県立大学 食品栄養科学部 助教	食品衛生学 微生物学	細菌の細胞外膜小胞メンブレンベシ クルが誘導する炎症・アレルギー反 応の作用機序解析
22	猪島 康雄	岐阜大学 応用生物科学部 共同獣医学科 教授	獣医学	牛乳エクソソームをドラッグデリバ リーシステムに利用するための基盤 研究
23	山本 眞由美	岐阜大学 連合創薬医療情報 研究科 教授	健康科学 内科学	日常生活環境コミュニティで健常人 に蔓延する薬剤耐性菌が引き起こす 感染症の実態解明-分子疫学解析-

24	五十里 彰	岐阜薬科大学 副学長 兼 教授	生化学	細胞間接着分子の発現異常を起点とした代謝リプログラミングによるがん免疫回避機構の解明と予防食品素材の探索
25	細川 智永	名古屋大学 大学院理学研究科 講師	神経科学 生化学	パーキンソン病原因タンパク質 α シヌクレインの凝縮を介した凝集の抑制因子の同定
26	松村 繁	名古屋大学大学院 医学系研究科 特任講師	国際医学教育 学癌免疫治療 研究室	ネオアジュバント細胞を用いた次世代がん免疫療法の開発
27	服部 光治	名古屋市立大学 大学院薬学研究科 病態生化学分野 教授	生化学 分子神経生物学	小脳神経変性を悪化させる新規メカニズムの解明と、これを標的とする治療法開発
28	高須 清誠	京都大学 大学院薬学研究科 教授	有機化学	ひずみ構造をもつ生物活性天然物のデータ駆動型精密有機合成と創薬への展開
29	浅岡 希美	京都大学大学院 医学研究科 助教	神経薬理学	強迫的意思決定に着目したプロセス依存症の神経メカニズム解明
30	中村 誠宏	京都薬科大学 生薬学分野 准教授	生薬学 天然物化学	植物性生薬由来二次代謝酵素群を利用した構造多様な抗がん性擬アルカロイドの合成研究
31	塩谷 和基	立命館大学 生命科学部 助教	神経科学	美味しさの脳内情報処理機構の解明
32	塚本 蔵	大阪大学大学院 医学系研究科 生命機能研究科 准教授	医学・生化学 細胞生物学	力学的負荷を感知する心臓特異的スーパーエンハンサーによる相分離型転写ファクトリーの解明
33	清水 康平	大阪公立大学 大学院医学研究科 助教	分子細胞生物学 医化学	抗炎症ユビキチンコードに着眼した炎症性腸疾患病態形成機構の解明と新規抗炎症薬開発への応用
34	稲瀬 安希	神戸大学大学院 医学研究科 バイオリソース研究・開発推進学分野 特命助教	腫瘍生物学 分子生物学	GSK3 α とGSK3 β の活性阻害がもたらす抗体薬物複合体効果増強に対する機能解析
35	村上 慧	関西学院大学 理学部 准教授	有機化学	ポリアミン改変のための炭素-炭素結合切断変換法の研究
36	松崎 健太郎	島根大学医学部 医学科生理学講座 講師	医学(生理学)	暑熱馴化の神経基盤の解明と熱中症予防への応用

37	タナッチャポーン カムランシー	広島大学大学院 統合生命科学研究科 准教授	食品科学 栄養学	食餌性GABAの食欲抑制メカニズム の解明とGABA分解酵素阻害剤によ る新規抗肥満治療法の開発
38	河野 尚平	広島大学大学院 医系科学研究科硬組織 代謝生物学 助教	歯学 栄養学	骨芽細胞シングルセルトランスクリ プトーム解析に基づく新規骨粗鬆症 治療ターゲットの同定
39	有吉 範高	岡山大学学術研究院 医歯薬学域 教授	生体制御科学	降圧機能を表示するNOS作動性機能 性食品による血圧降下応答性の個体 差解明
40	友信 奈保子	岡山大学 学術研究院医歯薬学域 特任助教	細胞生物学 分野	国内発の新しい生物製剤による難治 性皮膚炎症性疾患の病態制御
41	上住 聡芳	徳島大学大学院 医歯薬学研究部 特任講師	筋生物学 老化科学	アンチサルコペニア効果のある天然 物の作用メカニズム解明
42	諸富 洋介	九州大学大学院 薬学研究院 革新的バイオ医薬創成 学 特任准教授	腫瘍生物学 血栓止血学	Tumor educated platelet に存在する tRNAを用いた肺癌の新規バイオマ ーカーの探索
43	椎村 祐樹	久留米大学 分子研究科学研究所 助教	生化学 薬学 構造生物学	Gタンパク質共役型受容体のバイア スドリガンドの探索
44	今村 美菜子	琉球大学大学院 医学研究科先進ゲノム 検査医学講座 准教授	内科 臨床検査 ゲノム医学	生活習慣病の予防法・治療法開発へ の応用を目指した疾患感受性ミトコ ンドリアゲノム多型の網羅的探索
45	今井 孝	国立感染症研究所寄生 動物部2室・薬剤耐性 研究センター6室 室長	寄生虫学 免疫学 薬学	ストレス制御に着目したマラリア重 症化機序の解明と新しい治療法の開 発

③第1回（2012年度）から第4回（2015年度）までの採択者から提出いただいた最終報告書を取り纏めた「研究報告書（第1集）」を刊行した。

(2) 顕彰事業（第4回小林賞）

①公募期間：令和4年7月19日～9月15日

②令和4年12月13日開催の小林賞選考委員会において、大阪大学大学院生命機能研究科教授 近藤 滋 氏（第2回小林賞受賞者）から推薦のあった、慶應義塾大学医学部教授の 佐藤 俊朗 氏を受賞候補者として選定、理事会は、同氏を「第4回小林賞受賞者」として決定し、推薦者及び受賞者に通知した。

③小林賞贈呈式

小林賞贈呈式は、新型コロナウイルスの感染状況に鑑み、第1回以降、全ての開催を延期としていたところ、第1回から第4回までの受賞者の方々の栄誉を称えるため、令和5年2月20日に、リーガロイヤルホテル大阪において、合同による贈呈式を開催した。

Ⅱ. 処務の概要

1. 会議等に関する事項

(1) 理事会

月日	議 事 事 項	会議の結果
令和 4 年 4 月 28 日 (決議の省略)	1. 令和 4 年度（第 21 期）奨学生の決定について	全会一致で承認・可決
令和 4 年 6 月 3 日 (決議の省略)	1. 令和 3 年度事業報告及び収支決算について	全会一致で承認・可決
	2. 職務執行状況の報告について（報告）	
令和 4 年 8 月 15 日 (決議の省略)	1. 医学部生育成支援プログラム（第 2 期生）奨学生の決定について	全会一致で承認・可決
	2. 令和 4 年度事業計画及び収支予算の一部変更について	全会一致で承認・可決
令和 4 年 12 月 27 日 (決議の省略)	1. 第 11 回（令和 4 年度）研究助成の決定について	全会一致で承認・可決
	2. 第 4 回小林賞受賞者の決定について	全会一致で承認・可決
令和 5 年 2 月 1 日 (決議の省略)	1. 令和 4 年度臨時評議員会の開催及び招集について	全会一致で承認・可決
令和 5 年 3 月 11 日 (決議の省略)	1. 令和 5 年度事業計画及び収支予算について	全会一致で承認・可決
	2. 令和 5 年度業務委託契約について	全会一致で承認・可決
	3. 小林賞選考委員会委員の選任について	全会一致で承認・可決
	4. 株主権の議決権行使について	全会一致で承認・可決
	5. 令和 5 年度定時評議員会の開催について	全会一致で承認・可決
	6. 職務執行状況の報告について（報告）	

(2) 評議員会

令和 4 年 6 月 24 日 (決議の省略)	1. 令和 3 年度事業報告について（報告）	
	2. 令和 3 年度決算の承認について	全会一致で承認・可決
令和 4 年 8 月 26 日 (決議の省略)	1. 令和 4 年度事業計画及び収支予算の一部変更について	全会一致で承認・可決
令和 5 年 3 月 10 日 (決議の省略)	1. 令和 5 年度事業計画及び収支予算について	全会一致で承認・可決
	2. 株主権の議決権行使について（報告）	
	3. 令和 5 年度定時評議員会の開催について（報告）	
	4. 職務執行状況の報告について（報告）	

(3)選考委員会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
令和 4 年 4 月 21 日	令和 4 年度奨学生の選考 (申請者数：一般奨学生 28 名、特別研究 奨学生 9 名)	書類審査により、一般 奨学生 24 名、特別研究 奨学生 8 名の計 32 名を 新規に選考
令和 4 年 7 月 27 日	令和 4 年度「医学部生育成支援プログラム」 奨学生（第 2 期生）の選考 (申請者数：8 名（4 大学各 2 名))	書類審査並びに面接に (Zoom) より、6 名を 新規に選考
令和 4 年 12 月 1 日	令和 4 年度研究助成の選考 (申請件数：172 件)	書類審査により、新規 45 件を選考
令和 4 年 12 月 13 日	令和 4 年度「第 4 回小林賞」の選考 (申請件数：12 件)	書類審査により、慶應 義塾大学医学部教授の 佐藤俊朗氏を選考

なお、令和 4 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書は「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、作成していない。